

テーマ

子ども達に伝えるふるさとの魅力

| | |
|--------------------------------|----------------|
| 事業実施地区（中学校区名） | 匹見地区つろうて子育て協議会 |
| 事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等） | 匹見上公民館 |

テーマの背景

当地区は中国山脈に囲まれ木材等の自然資源にも恵まれた豊かな地区であるが、昭和の豪雪災害から人口が著しく減少し、現在は少子高齢化問題に直面している。こどもが減少していく中でふるさとの魅力を次世代へどう伝えていくかが課題となる。そこで当公民館では魅力発信・発見の場の提供、多世代交流を図る事業を通して地域の絆を深め地域全体で地区の魅力を再確認しようと考えた。

実際の取組

ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：夏休み体験

<取組の概要>

小学校の夏季長期休暇を利用して地区の資源や伝統、モノづくりの技法を活用して地域の方を講師に子ども達とふれあい、世代交流を図るとともにモノづくりを通して子どもに地区の魅力を再発見してもらうことを目的とした事業。

【取組み内容の例】

1. 自然体験：テントでの野外宿泊、調理、川の生態調査、地元寺での精神修行等
2. 工作教室：イス立て、藁草履ストラップ、お手玉、絵手紙等



自然体験活動写真①



自然体験活動写真③



お手玉作り活動写真



藁草履作り活動写真



イス立て作り活動写真



夏休み体験チラシ

<成果と課題>

地域の方を講師にすることで普段交流の少ない世代がふれあうことができ、世代を問わず地域の絆が深まった。事業後、子ども達に気軽に声をかけることができるようになったとの声も地域からあがった。地区の子ども人口が少ない中、全体の7割の子ども達が参加してくれたが、今後は全校生徒が参加してくれるような魅力のある事業の企画が課題となってくる。また、こどもの送迎問題で参加したいが参加できない子どもがいる。そういった問題もバス等を活用するなどして解決していきたい。

ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：ワクワク体験

<取組の概要>

小学校行事の振替休日を利用して公民館を開放し、小学生を対象に地域講師から地元食材を使った料理やお菓子作りを学ぶ。子ども達に地元食材の活用法を学ばせるとともにおいしさを知ってもらい魅力に気付いてもらうことを目的とした事業。

【取り組み内容の例】

1. パンナコッタ作り：地元食材であるブルーベリーを活用してお菓子作りが得意な地域の方にパンナコッタ、蒸しパンの作り方を学ぶ。
2. 巻き寿司作り：地域の方にすまきなどの専用道具の使い方から巻き寿司の作り方を学ぶ。



巻き寿司作り活動写真①



巻き寿司作り活動写真②



パンナコッタ作り活動写真①



パンナコッタ作り活動写真②



巻き寿司作りチラシ



パンナコッタ作りチラシ

<成果と課題>

子どもたち自ら食材に触れ、調理することで地元食材を美味しく食べる方法を学ぶことができた。地域講師の方からは「子供たちの美味しそうに食べる顔を見て元気をもらった」「家でも自分で作りたいと言われうれしかった」などこの事業を通して子供たちとふれあえたことに喜びの声をいただいた。子どもたちが地元食材の味を理解したうえで、今後はアレンジレシピなど独自の料理やお菓子を考え、調理・試食する場を提供したい。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

今現在地区を支えている地域の大人たちと子どもたちを交流させることで、子ども達は自然と地区の魅力を感じていくのだと思うので交流の場を提供することが魅力を知ってもらうための第一歩であると考え。モノづくりの伝統文化の継承では、藁草履をストラップにするなど、昔からの形をそのまま残すのではなく、現代の形にリメイクすることで子ども達にも親しみがわき、より学びやすいものになることがわかった。

今後の展望

地区の魅力を知ってもらうには、地域の方が特技や仕事を活かして活躍できる場を提供することが大事になってくる。大人たちのがんばりや努力を子ども達が見て、聞いて、体験することでふるさとには素晴らしい魅力がたくさんあるのだと実感してもらいたい。そして地区内外へ地区の魅力を広めていきたいという気持ちを持ち、将来地区住民として次世代を担っていく存在となったとき、自分たちの次の世代へ魅力を伝えていく際、当事業で培った技術・知識を活かしてほしい。